



収斂と多様性のヨーロッパ社会

ードイツ統一から四半世紀を経たヨーロッパと世界ー

21世紀を前にしてベルリンの壁が崩壊し、「一発の銃声」もなく「平和的かつ自由」な革命として東西ドイツの統一が実現しました。ヨーロッパにおいて旧ソ連、東欧の社会主義システムが崩壊し、経済システムも大きく資本主義へ転換した瞬間でした。また同時に欧州統合のうえでの東方拡大を推進し東西ヨーロッパの「収斂」を促したのです。

これらの原動力の一つに旧東ドイツ市民による民主化への要求と「旅行や移動の自由」への強いあこがれがあったといえます。

本講演では、このようなヨーロッパが、英国のEU離脱やアメリカの新大統領誕生など現代世界の新潮流にどのように向き合うのかを考えてみたいと思います。

■ 講 師 : **香川 敏幸氏** (慶應義塾大学名誉教授)

■ 日 時 : **2月7日**(火) 11:00~12:30

■ 場 所 : 関西学院大学 **大阪梅田キャンパス 1408号室**
(大阪市北区茶屋町19-19 アプローチタワー14F)

■ 参加費 : 無料(一般参加可、申し込み手続き不要)

<講師略歴>

1944年生まれ。慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(1972年)。慶應義塾大学名誉教授。亜細亜大学経済学部国際関係学科助教授、広島大学経済学部教授、慶應義塾大学総合政策学部教授を歴任される。

<主要著書>

『グローバル・ガバナンスとEUの深化』(共編著、慶應義塾大学出版会、2011年)

『総合政策学の最先端 IV - 新世代研究者による挑戦』(共編、慶應義塾大学出版会、2003年)

『総合政策学の最先端 I - 市場・リスク・持続可能性』(共著、慶應義塾大学出版会、2003年)

『人類社会時代の経営』(共著、綜合法令、1994年)